



令和6年12月4日発行

学校だより

第11号

江戸川区立松江第三中学校

〈 教育 目 標 〉

- 1 素直で明るい、心豊かな生徒を育てる
- 2 自ら進んで、よく学びよく働く生徒を育てる
- 3 責任を重んじ、正義と規律を尊ぶ生徒を育てる

～ 師も走りまわるほど忙しい時期 ～

校長 小澤 託

1年の締めくくりと言われる12月に入りました。

時が過ぎるのは早いものだ、と感じながら、12月はより一層忙しく、あっという間に過ぎてしまうだろうなあ、などとも思っております。

さて、この時の流れに関わって、“時間”のことを少し…。

皆さんは、“時間”を何で確認しますか？ 最近、スマホと連動させたスマートウォッチをしている方も増えてきましたが、私はアナログな人間なので、普通の腕時計で、“時間”を確認しています。この時を刻む時計も腕時計、置き時計、壁掛け時計などあります。その修理やメンテナンスを行う時計師という専門の技術者がいて、その技術者を育てるための専門学校まであるのをご存知でしょうか。その学校は3年制で、1年生でクロック(置き時計や掛け時計)の修理、2年生で腕時計の修理、3年生になると古い時計や複雑な機構の修理、部品づくりを学ぶのだそうです。

恥ずかしいことに、時計師と言われる職業があることも知りませんでしたし、その時計師を育成するために専門学校があることさえ私は知りませんでした。

プロフェッショナルとして育成され、正確な時を刻む時計専門の職人として社会に貢献する。そういう意志や目標をもって、進路や将来を決めていくのも良いと思います。

3年生は目の前に迫ってきた受験を第1に考えてほしいのですが、1・2年生は、これからの将来をじっくり考える“時間”を大切にしてほしいと思います。

もう1つ“時間”に関して。

人間の集中力と時間の関係について、ある本ではこう解説しています。

＜脳には、4つのタイムリミットが存在する＞

- ①人間の脳が1つのことに集中できる時間は4分半
- ②人間は約16分に一度、今考えていることと違うことを考えてしまう。ゆえに作業は15分に区切る
- ③集中していると、脳の血流は30分で滞り、パフォーマンスは落ちる。脳に血を巡らすために30分に一度立ち上がったり、肩をまわしたりして血流を回復させる
- ④知的作業を集中して続けられる限界は90分。大学の講義が90分で区切られるのはこの理由

なるほど、確かによく聞いたり、言ったりしますよね「この仕事は15分集中しよう」「30分で一区切りにしよう」ネットを使って調べ物をしていても、15分くらい経つと、最初の目的とは違うページに移動して読んでいたりしませんか？ 信じるか、信じないかは、人それぞれですが、試してみるのもありかもしれません…。

バタバタする時期だからこそ“時間”を大事にしていきたいものです。

【共に…】

都内の中学3年生が英語のスピーキングテストに取り組んだ11月24日(日)、川崎市にある横浜国際プールである大会が開催されました。その大会名は、鈴木孝幸杯インクルーシブ短水路水泳競技大会。

パリ・パラリンピックで金メダルをつかんだ競泳男子の鈴木孝幸さんが主宰した水泳大会でした。健常者と障がい者が同じレースで「競う」のが特徴で、障害の有無にかかわらず同じレースで泳ぎ、隣り合うことで交流を広げ「他者を理解する気持ちを育みたい」というねらいとパラ競泳の競技力をさらに向上させたいというねらいをもった大会でした。



ポイント制を取り入れ、健常者も障がい者も「競っているという気持ちをもてることがモチベーションにつながる」と期待し開催したそうです。大会には、予想していた倍の約200人の選手が出場し、その半数以上が健常者だったという。

おそらく日本で初めて?もしかしたら世界で初めての試みだったのではないのでしょうか。自らが考え、夢を実現するために多く人の協力を得て実現する。その考えに多くの人が賛同し、盛り上げる。協力した人は、多くのことを学び、成長する。それが、どんな人も一緒になって生きていく社会を創ることにつながる。素敵すぎると思いませんか?

実際に観に行って、肌でその思いを感じてみたいものです。

～三者面談～

11月29日(金)より、三者面談を全学年で実施しております。

保護者の皆様におかれましては、ご多用のところご来校いただき感謝申し上げます。

普段の学校生活の様子や学習の状況などお伝えし、ご家庭でのお子様の様子などをお聞きできる貴重な機会ととらえております。また、不安な点や心配なことなどもお聞きできる場であると思っております。時間が限られておりますが、せっかくの機会ですので、担任や学年の教員と様々なお話をさせていただき、ご家庭と学校が協力し合ってお子様(生徒)を育てていく土台を築くことができれば、と思っております。よろしくお願いいたします。



<ちょっといい話>

・以前、朝の登校時のあいさつの状況を学校だよりで報告させていただきました。先日、いつものように校門前であいさつをしていると、自転車で職場に向かっていたある方が、私の前に突然止まり「いつも生徒さんがあいさつしていて気持ちいいね～。生徒会の役員選挙の時なんか、いい声出ていたしね～。やっぱりあいさつできる子はいいよ～。んじゃ、頑張って」と。ほめられるのはうれしいですね!!

・前号、谷川俊太郎さんの「朝のリレー」を紹介しました。父から「朝のリレー」の詩を教えられ、朝、口ずさみながら登校した記憶がよみがえり、今度は私がバトンをつなごうと決意を新たにしている若者がいると紹介されていました。皆さんも身近な人からバトンを渡されているんじゃないですか?